

資料紹介

郵便切手類の原画・試作・募集作品について

星名 定雄

はじめに

筆者は、かつて『切手』誌に掲載された郵政省の担当官による新切手の解説を読んで、切手や葉書などの印面デザインがどのように作られていったのか関心を持つようになった。また近年、千葉県市川市にある郵政博物館の資料センターに収蔵されている表1の(B)欄に示す3種類の資料と(D)欄に示す目録を閲覧して調査させてもらった。以下、その調査報告である。(C)欄の略称で記していくが、原画、試作、募集作品の順に、それぞれの内容、収蔵状況、そして何点かの作品も併せて紹介していこう。

(A) 整理番号	(B) 資料名	(C) 略称	(D) 目録 (括弧内は図書番号)	
5001	郵便切手類図案原画	原画	「郵便切手類図案原画目録」	(CAA-1148)
5051	郵便切手類試作図案	試作	「郵便切手類試作図案目録 (作業番号順)」	(CAA-1149)
			「郵便切手類試作図案目録 (型録番号順)」	(CAA-1150)
5071	郵便切手図案募集作品	募集作品	「郵便切手図案募集作品目録」	(CAA-1167)

表1 閲覧調査した資料と目録



【図1】新切手解説の一例。慶應義塾創立100年記念切手の発行経緯と図案作成過程を解説した郵政省郵務局管理課切手係長の都留静夫氏の記事。参考写真3点と試作(下図)10点が紹介されている。全日本郵趣連盟編『切手』1958年11月2日付第298号から。

1 原画（整理番号 5001）

原画は、切手や葉書などを製造するときの印面デザインの基となるものである。印面の寸法は2、3センチ四方の小さなサイズだから、原画は原寸よりも大きなサイズで制作された。大正時代の田澤切手の原画は2倍図、戦前の第1次昭和切手の原画は4倍図、戦後の切手の原画は6倍図、8倍図などと次第に大きくなっていった。

大型化の要因は、製版をはじめ印刷一般の技術向上、グラビア多色刷の導入などにより、微細なカラーの絵でも切手に再現できるようになったからである。なお、現在、作画がコンピュータ上で行われているから、何倍図というよりは、縦横の比率が重要となっている。図2に凹版単色刷切手の原画、図3にグラビア多色刷切手の原画を紹介しよう。

【図2】左＝郵政省の大塚均氏が作画した慶應義塾創立100年記念切手の原画。切手サイズの4.5倍図。墨書き。右＝実際の切手。原版彫刻者は印刷局の笠野常雄氏。暗い赤紫単色凹版印刷。印面寸法は33×22.5ミリ。演説館のナマコ壁を輪郭とし、校舎と福沢諭吉の胸像を配している。



原画 5001-214-010



原画 5001-211-001



原画 5001-212-006

【図3】左＝第15回国際商業会議所総会記念切手の原画。木村勝氏作画。ドイツから輸入されたばかりのゲーベル4色グラビア輪転機で印刷された。我が国初の多色刷切手。右＝マナスル登頂記念切手の原画。1956年発行、久野実氏作画。

郵政博物館が収蔵している原画は、1922年富士鹿切手から2000年20世紀切手までの79年間3,081点。内訳は、普通切手177点、記念切手752点、シリーズ切手1,267点、年賀切手167点、郵便葉書など718点で、シリーズ切手の作品が多いことが注目される（表2）。

原画には、前段で紹介した慶應義塾や鯉のぼりの切手図案のように文字の配置も指定された完全な図案、文字はないがマナスル登頂切手のようなほぼ完全な図案のほかにも、次のような

種別	発行年	整理番号	区分／名称	点数	種別	発行年	整理番号	区分／名称	点数
普通切手	1922	5001-101-001	富士鹿	1	シ リ ー ズ 切 手	1996	5001-252-001～	シーボルト生誕など	14
	1926	5001-101-002～	風景	3		1997	5001-253-001～	参議院50周年など	20
	1937～40	5001-101-005～	第1次昭和	19		1998	5001-254-001～	長野五輪大会など	29
	1942～45	5001-101-024～	第2次昭和	9		1947～98	5001-301-001～	国民体育大会	81
	1945～46	5001-101-033～	第3次昭和	5		1948～98	5001-302-001～	国土緑化	32
	1946～47	5001-101-038～	第1次新昭和	6		1953～56	5001-303-001～	国立公園	90
	1946～48	5001-101-044～	第2次新昭和	7		1958～73	5001-304-001～	国定公園	57
	1947～48	5001-101-051～	第3次新昭和	4		1947～98	5001-305-001～	切手趣味週間	58
	1948～49	5001-101-055～	産業図案	11		1958～73	5001-306-001～	国際文通週間	64
	1950～51	5001-101-066～	第1次動植物国宝	7		1958～98	5001-307-001～	ふみの日	98
	1951～55	5001-101-073～	第2次動植物国宝	12		1949～52	5001-308-001～	文化人	18
	1961～65	5001-101-085～	第3次動植物国宝	9		1951～53	5001-309-001～	観光百選	20
	1966～72	5001-101-094～	新動植物国宝	9		1960	5001-310-001～	日本三景	3
	1968～89	5001-101-103～	5円～500円切手	52		1961	5001-311-001～	花	12
	1982～94	5001-103-001～	慶弔用	9		1962～63	5001-312-001～	季節の行事	4
	1984～95	5001-104-001～	電子郵便用	2		1963～64	5001-313-001～	鳥	6
	1995	5001-105-001～	グリーティング用	6		1964～65	5001-314-001～	お祭り	5
	1929～53	5001-106-001～	航空用	5		1966～67	5001-315-001～	魚介	24
	1941	5001-107-001	貯金用	1		1966～67	5001-316-001～	名園	3
記念切手	1925～42	5001-201-001～	戦前記念切手	27	シ リ ー ズ 切 手	1967～69	5001-317-001～	国宝	22
	1946	5001-202-001～	郵便創始75年	5		1970～72	5001-318-001～	古典芸能	13
	1947	5001-203-001～	憲法施行など	11		1973～75	5001-319-001～	昔ばなし	21
	1948	5001-204-001～	教育復興など	14		1974～78	5001-320-001～	自然保護	20
	1949	5001-205-001～	日本貿易博など	13		1974～75	5001-321-001～	S L	10
	1950	5001-206-001～	放送25年など	2		1975～76	5001-322-001～	船	12
	1951	5001-207-001～	児童憲章制定	4		1976～78	5001-323-001～	国宝	17
	1952	5001-208-001～	UPU加盟75年など	8		1978～79	5001-324-001～	相撲絵	10
	1953	5001-209-001～	電灯75年など	6		1979～83	5001-325-001～	近代美術	33
	1954	5001-210-001～	スケート競技など	5		1979～81	5001-326-001～	日本の歌	18
	1955	5001-211-001	国際商工会議所総会	1		1981～84	5001-327-001～	近代洋風建築	40
	1956	5001-212-001～	卓球選手権など	8		1983～84	5001-328-001～	特殊鳥類	14
	1957	5001-213-001～	国連加盟など	6		1984～86	5001-329-001～	高山植物	14
	1958	5001-214-001～	関門トンネルなど	12		1984～86	5001-330-001～	伝統的工芸品	28
	1959	5001-215-001～	児島湾堤防など	12		1986～87	5001-331-001～	昆虫	25
	1960	5001-216-001～	奈良還都など	15		1987～89	5001-332-001～	奥の細道	118
	1961	5001-217-003～	東京五輪募金など	10		1987～89	5001-333-001～	国宝	16
	1962	5001-218-001～	北陸トンネルなど	9		1990	5001-334-001～	電気機関車	10
	1963	5001-219-001～	北九州市発足など	15		1990～91	5001-335-001～	馬と文化	13
	1964	5001-220-001～	東京五輪など	15		1990～92	5001-336-001～	歌舞伎	12
	1965	5001-221-001～	富士山レーダーなど	13		1991～93	5001-337-001～	水辺の鳥	16
	1966	5001-222-001～	工業所有権総会など	13		1992～98	5001-338-001～	文化人	16
	1967	5001-223-001～	衛星通信開始など	12		1993～94	5001-339-001～	四季の花	8
	1968	5001-224-001～	青年の船など	13		1994～96	5001-340-001～	郵便切手の歩み	22
	1969	5001-225-001～	日本万博寄付など	15		1994～95	5001-341-001～	世界遺産	8
	1970	5001-226-001～	日本万博など	15		1999～2000	5001-342-001～	20世紀切手デザイン	156
	1971	5001-227-001～	札幌五輪寄付など	20	年 賀	1937～98	5001-401-001～	年賀切手	97
	1972	5001-228-001～	鉄道100年など	14		1952～99	5001-402-001～	年賀お年玉シート	53
	1973	5001-229-001～	郵便番号10年など	6		1990～93	5001-501-001～	ふるさと切手シート	17
	1974	5001-230-001～	昭和結婚50年など	13	郵 便 葉 書 等	1930～94	5001-701-001～	普通葉書	14
	1975	5001-231-001～	放送50年など	12		1955	5001-702-001～	往復葉書	2
	1976	5001-232-001～	日中ケーブルなど	6		1947～94	5001-703-001～	連合葉書	19
	1977	5001-233-001～	スケート競技など	17		1939～93	5001-704-001～	記念葉書等	49
	1978	5001-234-001～	国際ロータリーなど	10		1949～98	5001-705-001～	年賀葉書	127
	1979	5001-235-001～	国際児童年など	10		1982～98	5001-706-001～	絵入り年賀葉書(裏面)	45
	1980	5001-236-001～	財政監査制度など	8		1983～97	5001-707-001～	年賀葉書地方版(裏面)	92
	1981	5001-237-001～	神戸ポート博など	12		1952～98	5001-708-001～	暑中見舞葉書	80
	1982	5001-238-001～	動物園100年など	13		1950～98	5001-709-001～	暑中見舞葉書(裏面)	112
	1983	5001-239-001～	歴史民俗博物館など	14		1987～89	5001-710-001～	さくらめーる	36
	1984	5001-240-001～	科学技術博寄付など	15		1987～89	5001-711-001～	さくらめーる(裏面)	39
	1985	5001-241-001～	科学技術博など	20		1991～98	5001-712-001～	はあとめーる	25
	1986	5001-242-001～	建築学100年など	15		1991～98	5001-713-001～	はあとめーる(裏面)	26
	1987	5001-243-001～	登記制度100年など	21		1976～96	5001-714-001～	青い鳥葉書	6
	1988	5001-244-001～	青函トンネルなど	18		1993～98	5001-715-001～	広告付葉書	8
	1989	5001-245-001～	アジア太平洋博など	27		1985～95	5001-716-001～	絵入り葉書	6
	1990	5001-246-001～	国際花と緑博など	27		1991	5001-717-001	ふるさと絵入り葉書	1
	1991	5001-247-001～	ユニバーシアードなど	26		1937～95	5001-718-001～	郵便書簡	14
	1992	5001-248-001～	ワシントン条約など	13		1949～94	5001-719-001～	航空書簡	16
	1993	5001-249-001～	アルペンスキーなど	21		1968	5001-720-001	小包葉書	1
	1994	5001-250-001～	フィギュアスケートなど	28	合 計				3,081
	1995	5001-251-001～	日伯修好100年など	24					

(出典) 郵政博物館収蔵「郵便切手類図案原画目録」(CAA-1148) から作成。

表2 原画の総括表

ものも含まれる。例えば、国立公園切手などに採用された写真素材、近代洋風建築シリーズ切手などのために描いてもらった外部画家の絵画作品、暑中見舞葉書などの裏面図案、年賀葉書の消印カットなどがある。

文字構成を示す図版も最終的な原画に仕上げるための素材として、原画の一部として取り扱われている。この文字構成を示す素材としては、写真に直接文字を書き込んだものや、トレーシング・ペーパーに文字を書き込み写真にかぶせたものや、後年、アニメ作成で活躍する透明シート（セル）も切手の原画作成の分野でも活用されるようになった。

1955年発行オシドリ 5円切手の原画は興味深い。それは、同一のオシドリ図案で単色刷・2色刷・多色刷用の3種類の原画が検討過程で制作された。それらに基づいて、印刷局から何種類もの試刷が郵政省に順次回校された。しかし、単色では青い水面と色鮮やかなオシドリの対比が表現できないし、反対に、多色刷では長期に大量に印刷する普通切手では、斉一性を保つことが難しいこと、また、印刷コストがかかりすぎるなどの難点があった。そのため中間をとって、2色刷に決定された。

表3に、原画の年代別制作点数を示す。戦後1950年代は300点弱であったが、切手ブームが往来した1960年代から1970年代にかけては400点強、シリーズ切手発行が本格化した1980年代から1990年代に入ると倍増し800点を超えるようになった。

年代	1920s	1930s	1940s	1950s	1960s	合 計
点数	5	40	133	272	438	3,081
年代	1970s	1980s	1990s	2000	不 明	
点数	438	817	814	116	8	

（出典）郵政博物館収蔵「郵便切手類図案原画目録」（CAA-1148）から作成。

表3 原画の年代別制作点数

原画は次の3つの方法により保存されている。第1の方法は、外部の画家に委嘱して描いてもらった絵画作品（原画）などを額装して特別のケースに収納し保存する（図4）。滝平二郎画伯や谷内六郎画伯らの作品が対象となっている。第2の方法は、原画をマット装にして中性紙の特別な保護封筒に収納する。第3の方法は、原画をそのまま特別な封筒に収納する。その割合は、大略、額装保存が1割、マット装封筒保存が3割、残りの6割が封筒保存となっている。特別な封筒のサイズは30×40センチ程度のもが多く利用され、封筒は桐木材で作られた特製の原画保管庫の引出に整理番号順に収納されている。保管庫は桐箆筒と同じ保存効果があり、1995年に設置された（図5）。



【図4】額装しケースで保管



【図5】桐製の特製原画保管庫

なお、原画総数3,081点のうち、ほぼ半数の1,600点が原画とカラーチャートを並べて撮影され、JPEGファイル形式で保存されている。換言すれば、原画のデジタル・データベースが構築されている。内容は、いわゆる最終原画の作品群である。

表4に、目録上で10点以上の作品があった図案者33人の名前を挙げる。全体では360人ほどの名前が確認できた。郵政省の職員をはじめ、外部の画家などデザイナーが290人ほど、写真担当の職員や外部の写真家が70人近く、芭蕉の句などを揮毫した書家6人の名前も含まれていた。半世紀にわたり、切手や葉書などの図案をデザインしてきた渡辺三郎氏、久野実氏、木村勝氏、大塚均氏らの往年の郵政省の技芸官の名前は、昭和の切手コレクターにとっては懐かしい。ちなみに「技芸官」は郵政省において1968年から2000年まで使われた官職名。

図案者	作品数	制作期間	最初の作品
森田基治	265	22年間 (1977-1998)	万国郵便連合加盟100年記念切手
渡辺三郎	208	51年間 (1947-1997)	第2次新昭和普通切手(45銭)
久野実	166	49年間 (1946-1994)	郵便創始75周年記念切手
木村勝	120	51年間 (1936-1986)	国会議事堂竣工記念切手
菊池吉晃	115	15年間 (1971-1985)	普通葉書(土器)
大塚均	113	59年間 (1937-1995)	昭和13年用年賀切手
長谷部日出男	81	26年間 (1955-1980)	昭和31年用年賀葉書
山野内孝夫	73	48年間 (1947-1994)	第2次新昭和普通切手(30銭)
菊池彰	65	10年間 (1989-1998)	昭和64年お年玉切手シート
武荒勸嗣	62	29年間 (1970-1998)	日本万国博覧記念切手(第2集)
青木義照	60	8年間 (1987-1994)	奥の細道 栗の花
加曾利鼎造	59	20年間 (1934-1953)	芦ノ湖航空切手
日置勝駿	57	33年間 (1945-1977)	台湾数字切手
清水隆志	55	26年間 (1971-1996)	南極条約10周年記念切手
原田一郎	51	11年間 (1988-1998)	昭和63年用さくらめーる葉書
東角井良臣	48	46年間 (1949-1994)	第4回国民体育大会記念切手
内田悦代	46	14年間 (1985-1998)	ふみの日切手
吉田豊	46	36年間 (1925-1960)	大婚25年記念切手
江守若菜	30	33年間 (1961-1993)	昭和37年用年賀切手
武荒信顕	27	12年間 (1987-1998)	昭和62年用さくらめーる葉書
堀川えい子	27	12年間 (1987-1998)	昭和62年用さくらめーる葉書(裏面)
天野孝雄	26	24年間 (1968-1991)	昭和44年用年賀葉書
大谷文人	26	10年間 (1980-1989)	国際地理学会議記念切手
玉木明	26	6年間 (1993-1998)	農業試験研究100年記念切手
近岡善次郎	20	4年間 (1981-1984)	近代洋風建築シリーズ切手
村上勉	19	18年間 (1979-1996)	日本の歌シリーズ切手(ふるさと)
岡田紅陽	19	19年間 (1949-1967)	吉野熊野国立公園 大峰山(写真)
増井国男	17	17年間 (1955-1971)	陸中海岸国立公園 弁天崎(写真)
大矢高弓	16	4年間 (1995-1998)	平成7年用さくらめーる葉書
黒井健	13	6年間 (1989-1994)	平成元年ふみの日切手
杉田豊	12	5年間 (1994-1998)	平成6年ふみの日切手
入江泰吉	12	17年間 (1951-1967)	観光地百選 赤目四十八滝(写真)
永田萌	11	10年間 (1982-1991)	昭和57年ふみの日切手
	1,090	作品10点未満の制作者(約340名)の累計点数	
合計	3,081		

(出典) 郵政博物館収蔵「郵便切手類図案原画目録」(CAA-1148)から作成。

(注) 2000年までのデータに基づいたもので、それ以後に制作された作品点数は含まれていない。

表4 原画の図案者

2 試作（整理番号 5051）

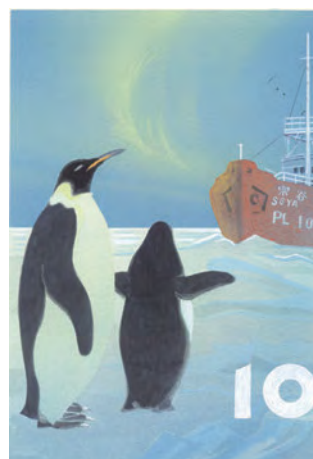
試作は、原画が決定されまでに制作された一連の作品であって、原画以外の作品をいう。簡単に言えば、原画と異なるデザインなどの作品となろうか。試作は、作画の進行状況あるいは形態によって、以下に示すように、素描、試作、下絵、下図、中間作品、試作原画などとさまざまな呼び方がある。ただし、試作に区分された、セルを使った文字の構成案、デジタル作画や打出（紙焼類）、図案参考写真などは、「関連資料」として取り扱われている。



試作 5051-2029
(B0334-01)



試作 5051-3897
(Z0011-04)



試作 5051-2046
(B0440-05)

【図 6】 左＝1961年発行の花シリーズ「やまゆり」の素描、長谷部日出男氏作画。中＝1963年発行を予定した「働く女性」シリーズの切手の下絵か。稲刈りをする女性、作者不詳。右＝1965年発行南極地域観測再開記念切手の中間作品、木村勝氏作画。



試作 5051-2092
(B0440-03)



試作 5051-1649
(N0140-16)

【図 7】 左＝南極地域観測再開記念切手の試作図案、山野内孝夫氏作画。右＝平成12（2000）年用年賀葉書の消印カットの下図。大矢高弓氏作画。

試作には、各作品に作業番号と型録番号の2種類の番号が付され、試作の目録も表1に示すように作業番号順と型録番号順に編まれた2冊がある。5051で始まる番号が作業番号、アルファベット記号で始まる番号が型録番号である。型録番号の末尾枝番2桁は作品番号。上図のキャプション参照。

表5に、試作の種類別・年代別のデータを示す。試作は1937年第1次昭和切手から2010年ふるさと切手までの74年間総計5,686点の作品が整理されている。切手や葉書の試作が95パーセントを占めているが、関連資料に分類されたセルやデジタル素材が1990年代後半から増加している。

種類別では、記念・特殊切手（シリーズ切手など）、暑中見舞葉書、年賀葉書、普通切手などの作品が多いことがわかる。年代別では、1930年代の数字は第1次昭和切手の試作で占められているが、1950年代から1970年代までの期間は600点から700点前後で推移している。1980年代に入ると、前の年代よりほぼ倍増する。シリーズ切手の増加や作画のデジタル化が進んだ結果が現れている。

A種類別						B年代別	
種類		記号	試作	関連資料	計	年代	合計
切手	記念・特殊	B	2,281	121	2,402	1930s	235
	普通	A	464	46	510	1940s	137
	年賀	E	377	19	396	1950s	575
	国定公園	D	60	0	60	1960s	719
	ふるさと	X	44	1	45	1970s	691
	国立公園	C	16	0	16	1980s	1,370
	航空	F	5	0	5	1990s	1,191
小計			3,247	187	3,434	2000s	328
葉書	暑中見舞	Q	658	20	678	2010s	1
	年賀	N	503	35	538	不明	139
	さくらめーる	P	439	14	453	計	5,386
	記念	L	157	7	164		
	普通	J	57	12	69		
	青い鳥	M	57	0	57		
	国際	T	50	6	56		
	エコー	R	45	0	45		
	絵入り	S	11	0	11		
	ふるさと	XS	2	0	2		
小計			1,979	94	2,073		
書簡	郵便	K	65	9	74		
	航空	U	48	1	49		
小計			113	10	123		
その他	用途不明	Z	47	2	49		
	簿冊類	UB	0	7	7		
合計			5,386	300	5,686		

(出典) 郵政博物館収蔵「郵便切手類試作図案目録（型録番号順）」(CAA-1150) から作成。

表5 試作の種類別・年代別内訳

当初、試作は順不同の集積群で、整理はいわば手前から番号を付けて、中性紙の特別な封筒に順次収納して、作業番号順にキャビネットに保存していった。封筒の寸法は24×33センチあるいは27×39センチ。ただし、1982年発行の動物園100年記念切手4種連刷66×12センチのような大型の試作は別に保管されている。

上記作業と同時に、試作の画像をJPEGファイル形式でデジタル化、更に、画像と所要のデータを記録した試作データシート（図8）が作成された。データシートは型録番号順にファイ

リングされている。データシートのファイルと型録番号順の試作目録は、資料の閲覧者にとって、試作の全体像を体系的に把握するのに便利である。



試作 5051-0290
(B1231-02)

試作 5051-1071
(J0102-04)

【図8】上＝試作データシート2葉。天野孝雄氏作画の国土緑化には、元絵、文字の配置を示すセル、それら2点を重ねた最終図案の3点が表示されている。渡辺三郎氏の柿本人麻呂を描いた試作裏面には、人麻呂の百人一首の歌「あしびきの／山鳥の尾のしだり尾の／ながながし夜を／ひとりかもねむ」が記されていたことも付記されていた。右はデータシートのファイル、全部で14冊ある。写真はその一部。



表6に、試作の目録上で10点以上の作品があった図案者30人の名前を挙げる。全体で69人の名前が確認できたが、多くは郵政省や日本郵便の切手類の専門デザイナーで、外部委嘱者の名前は少なかった。当然ではあるが、表4に挙げた原画の図案者の名前と重なるケースも半数を超えて、女性デザイナーの名前も出てきている。なお、試作1,873点の図案者の名前が確認できなかった。

以上、郵政博物館が収蔵している試作の収蔵状況について、その概況を述べてきたが、特に国家的な慶事を祝う記念切手については、多くの試作が残されていた。そのことから、最終図案決定にあたって、郵政当局が慎重の上にも慎重に検討していた様子がうかがえる。一例を挙げれば、1959年の皇太子（現上皇）御成婚切手は21点の試作、1964年東京オリンピック切手は71点の試作、1970年の日本万国博切手は25点の試作が確認できた。

図案者	作品数	制作期間	図案者	作品数	制作期間
大塚均	313	40年間 (1958-1997)	木村勝	67	51年間 (1937-1987)
渡辺三郎	309	54年間 (1945-1998)	加曾利鼎造	67	19年間 (1932-1950)
久野実	263	52年間 (1946-1997)	乗松巖	62	22年間 (1958-1979)
武荒勸嗣	232	39年間 (1969-2007)	菊池彰	61	37年間 (1972-2008)
清水隆志	197	32年間 (1971-2002)	貝渕純子	59	10年間 (1993-2002)
天野孝雄	187	18年間 (1974-1991)	公募作品	54	12年間 (1986-1997)
内田悦代	186	18年間 (1985-2002)	樋口薫	54	6年間 (1996-2001)
東角井良臣	160	35年間 (1961-1995)	小出真己	29	12年間 (1995-2006)
原田一郎	153	14年間 (1986-1999)	森田基治	14	21年間 (1977-1997)
江守若菜	142	42年間 (1961-2002)	真清みどり	12	4年間 (1967-1970)
武荒信顕	137	32年間 (1977-2008)	清水隆史	11	3年間 (2000-2002)
長谷部日出男	136	32年間 (1955-1986)	増山修	10	1年間 (1937-1937)
日置勝駿	106	42年間 (1937-1978)	篠原栄太	10	1年間 (1999-1999)
山野内孝夫	104	30年間 (1959-1988)	小 計	3,402	30人
堀川えい子	98	17年間 (1986-2002)	9点以下	111	39人
大矢高弓	94	15年間 (1994-2008)	作者不詳	1,873	
吉田豊	75	32年間 (1932-1963)	合 計	5,386	

(出典) 郵政博物館収蔵「郵便切手類試作図案目録 (作業番号順)」(CAA-1149) から作成。
(注) 2010年までのデータに基づいたもので、それ以後に制作している作品点数は含まれていない。

表 6 試作の図案者

3 募集作品 (整理番号 5071)

募集作品は、切手や葉書の図案の懸賞募集に応じて提出された作品をいう。現在、郵政博物館には、1913年から1952年までの間に行われた6回の切手図案懸賞募集の募集作品2,961点が収蔵されている (表 7)。

切手や葉書の図案制作は、当初、通信省や印刷局のいわばプロのデザイナーの仕事であったが、大正時代を迎えた1913 (大正 2) 年に、新しい時代に相応しい切手図案を一般から募集することになり、切手図案懸賞募集の公告が官報に掲載された。これが切手デザインコンテストの嚆矢となる。募集作品の9割以上が奇跡的に残っている。しかし、大正新切手を除いて、募集作品の残存率は低く、皇太子御外遊切手が27パーセント、憲法施行切手が10パーセントを記

区 分	整理番号	募集年	応募点数	収蔵点数	残存率
大正新切手	5071-1913-0001~	1913	1,734	1,610	93%
昭和12年用年賀切手	5071-1936-0001~	1936	1,481	51	3 %
時局切手	5071-1941-0001~	1941	2,972	62	2 %
平和新日本切手	5071-1945-0001~	1945	3,060	300	10%
日本国憲法施行記念切手	5071-1946-0001~	1946	12,348	221	2 %
皇太子殿下御外遊記念切手	5071-1953-0001~	1953	2,611	717	27%
計			24,206	2,961	12%

(出典) 郵政博物館収蔵「郵便切手図案募集作品目録」(CAA-1167) から作成。
(注) 1. 大正新切手は低中高額3種1組で募集。組数では、応募578組・収蔵539組となった。
2. 時局切手の収蔵62点のうち入選作品16点は実物がないので、複製写真で保存。
3. 皇太子御外遊切手図案の懸賞募集は毎日新聞社主催・郵政省協力の形で実施。収蔵点数には、未整理の選外作品495点を含む。

表 7 募集作品の総括表

録したものの、他の募集案件は数パーセントに止まっている。

保管状況を見ると、大正新切手は1組3点ずつ台紙に貼られた作品539組が7冊の簿冊に製本されて保管されている。また、年賀切手と時局切手は透明ビニール・ファイルに1点ずつ収納されているが、その他の作品は各案件ごとに一括して保管箱に収納されている。

募集作品が切手に採用された例を挙げれば、大正新切手では田澤昌言氏の「アールヌーボー調の模様」1等作品3点、時局切手では鈴木泉造氏の「八紘基柱」1等作品など8点、平和新日本切手では山野内孝夫氏の「法隆寺五重塔」佳作作品など2点、憲法施行切手では堀本正規氏の「花束」2等作品など2点、皇太子御外遊切手では中尾龍作氏の「鳳凰」推薦作品など2点選ばれた。前記の例では、皇太子殿下の御肖像を描いた作品が特選となったが、宮内庁の反対で御肖像切手は実現できず、発行も遅れて、帰国時となり御帰朝の記念切手となる。切手になった憲法の募集作品2点と皇太子2点は、募集作品（5071）ではなく、原画（5001）として整理されている。以下に、田澤作品を含め募集作品4点を紹介しておこう。



募集作品 5071-1913-0382



募集作品 5071-1936-0049



募集作品 5071-1945-0011



募集作品 5071-1946-0063

【図9】懸賞募集の募集作品。上左＝田澤昌言氏作画の大正新切手1等作品。5厘切手に採用され、後に「田澤切手」と呼ばれるようになる。田澤氏は印刷局職員。以下選外作品。上右＝戦時中の時局切手、南方で活躍した戦車を描く。下左＝平和新日本の切手には桜とハトが、下右＝新憲法施行記念切手には日本の象徴「富士山」、国民主権を表す「国会議事堂」、平和を祈念し「オリブをくわえるハト」が描かれている。市井の人々が描いた切手の図案にも、戦前、戦中、戦後と激動した日本の姿を見ることができる。

若干補足すれば、1960年以降も切手類の図案公募は行われているが、募集作品（5071）としては整理されていない。その例として筆者が確認できたものは、1986年国際平和年7点、1987年国際住宅年11点、1990年切手図案コンクール6点、1991年切手図案コンクール4点、1995年平和50周年記念1点、1995年ユネスコ50周年記念3件、1997年ふみの日20点、ミニレター2点の8案件54点で、試作（5051）に整理されていた。いずれも入賞作品や佳作作品である。

以上が郵政博物館が収蔵している切手類の原画、試作、募集作品の概要である。最近の切手デザインはコンピュータで作画するから、ここで紹介したような形で作品が残ることはないであろう。そのことを考えると、今ある収蔵品は、一昔前、否、二昔前の大正昭和の貴重な切手絵画コレクションともなろう。切手は方寸の美術品である。是非、これら収蔵品を切手文化遺産として末永く後世の人に残して伝えていって欲しい。収蔵品から、私は、大正の新しい時代への息吹、昭和の戦中の国家意識、敗戦から復興そして高度経済成長を成し遂げた時代の一端を垣間見ることができた。切手図案はそれぞれの時代の歴史を映し出しているのである。

【参考文献等】

- 「郵便切手類図案原画目録」（郵政博物館収蔵、CAA-1148）
- 「郵便切手類試作図案目録（作業番号順）」（同上、CAA-1149）
- 「郵便切手類試作図案目録（型録番号順）」（同上、CAA-1150）
- 「郵便切手類試作図案（5051）データシート集」（同上、全14冊+目次2冊、CAA-1151～1166）
- 「郵便切手図案募集作品目録」（同上、CAA-1167）

郵便史研究:

- 星名定雄「郵政博物館収蔵 昭和切手の原図帳について」『郵便史研究』（39）2015年。
- 「郵政博物館の「試作原画データ」について」『郵便史研究』（42）2016年。
- 「試作原画データ追補 慶應義塾創立100年記念切手」『郵便史研究』（43）2017年。
- 「戦中戦後に描かれた普通切手等の原画」『郵便史研究』（45）2018年。
- 「郵政博物館収蔵 昭和20年代の切手・葉書の下絵と原画」『郵便史研究』（47）2019年。
- 「郵政博物館収蔵 1964年東京オリンピック切手等の下図」『郵便史研究』（49）2020年。
- 「郵政博物館収蔵 平和新日本の切手—昭和20年公募図案について—」『郵便史研究』（55）2023年。
- 「郵政博物館収蔵 日本国憲法施行記念切手図案公募作品について」『郵便史研究』（56）2023年。

最後に、原画、試作、応募作品をはじめ、関連する文献資料などの閲覧にあたって、郵政博物館資料センターの皆さまには、たいへんお世話になった。記して感謝を申し上げる。

（ほしな さだお 郵便史研究会会員）